



グローバルマクロ週報 ・ 2026年第40週 (9/28~10/2)

米30年債利回りは12bp上 昇、ハンセン指数は2.2%下 落、日経平均は2.9%上昇 雇用の減速で短期金利の利上げ観測は 後退、長期金利は財政とインフレの圧 力を受けて上昇が続いた

米9月の非農業部門雇用者数は2.9万人増と、市場予想の8.4万人増を下回り、失業率は4.2%に上昇した。ジェファースンFRB副議長とウィリアムズNY連銀総裁の発言も加わり、10月利上げの織り込みは前週の64%から約22%に低下した。米国債利回りは短期と長期で方向が分かれ、木曜までに2年債利回りは3bp低下、30年債利回りは12bp上昇し、イールドカーブはスティープ化した。ユーロ圏9月の消費者物価速報は3.8%に上昇し、英30年債利回りは6%に達し、欧州株は下落した。香港株は休場明けに下落し、ハンセン指数は週間で2.2%安となった。日経平均は半導体株主導で2.9%上昇した。

世界株 (MSCI ACWI、ドル建て) -0.6% 終値 160.09	ユーロ圏・ストックス50 -1.0% 終値 6,238.50	日本・日経平均 +2.9% 終値 68,309.46	香港・ハンセン -2.2% 終値 23,972.29	ドル指数 101.93 週間 +0.96
ブレント原油 -2.0% 終値 102.25				

01

今週の要点

米雇用統計は予想を下回り10月利上げ観測が後退、イールドカーブはスティープ化

米9月の非農業部門雇用者数は2.9万人増と、市場予想の8.4万人増を下回った。8月は13.3万人増に、7月は1万人減に修正され、2カ月合計で6万人の下方修正となった。失業率は4.1%から4.2%に上昇し、平均時給は前月比0.1%増、前年比3.0%増と2021年以降の低い伸びにとどまった (CNBC、BLS)。これに先立ち、ジェファースン副議長は10月1

日、今後の政策調整はデータの動向を慎重に見極めて判断すべきであり時間を要する可能性があると述べ、ウィリアムズ総裁も10月の行動を確約しなかった。10月27～28日会合での利上げの織り込みは前週の64%から約22%に低下した（Yahoo Finance）。

木曜時点（FRED）で、米2年債利回りは3bp低下の4.78%、10年債は7bp上昇の5.24%、30年債は12bp上昇の5.61%となり、10年債と2年債の利回り差は10bp拡大して46bpとなった。10年債利回りの上昇幅のうち、実質金利の寄与が5bp、期待インフレ率の寄与が2bpである。金曜は雇用統計の発表後に利回りがいったん低下した後に上昇に転じ、10年債は約5.28%で取引を終えた（同出典、FREDの週間データには未反映）。MOVE指数は11.3ポイント上昇して107.3となった。S&P500は金曜に0.73%上昇して7722.72となったが、週間では0.27%下落した。**利上げ観測の後退は主に短期ゾーンに作用し、長期金利は国債需給とタームプレミアムに左右されているとみられる（推測）。**

ユーロ圏インフレ率は3.8%に上昇、欧州の長期金利は数年来の高水準となり欧州株は下落

ユーロスタットの速報によると、ユーロ圏9月の消費者物価指数（HICP）は前年比3.8%上昇し、8月の3.2%、市場予想の3.6%を上回り、2023年9月以来の高水準となった。エネルギーは前年比18.8%上昇、サービスは3.2%上昇、コアインフレ率は2.5%であった（Eurostat、CNBC）。中東情勢を背景としたエネルギー価格の上昇が総合インフレ率の約半分を占める。

欧州国債は軟調であった。英30年債利回りは10月1日に6.020%まで上昇し、1998年以来の高水準となった。G7の長期国債利回りが6%を超えるのは2012年以来である（Seoul Economic Daily）。仏10年債利回りは2008年以来の高水準に達し、政府は540億ユーロの財政再建策を盛り込んだ予算案を公表した（Yahoo Finance）。金曜の米雇用統計発表後、独10年債利回りは6bp超低下して3.454%となった。

週間では仏CAC40が2.2%安、英FTSE100が2.2%安、スイスSMIが2.0%安、ユーロ・ストックス50が1.0%安、独DAXが0.7%安となった。ユーロは対ドルで1.0%下落したため、ドル建てではユーロ・ストックス50が約2.0%安、CAC40が約3.2%安となる。金曜は米雇用統計の発表を受けて欧州株が反発し、ストックス600は0.8%上昇したものの週間では1.1%下落し、銀行株は4月以来の大幅な週間下落となった（Yahoo Finance）。

半導体株が日経平均をけん引、中国PMIは拡大圏に回復、香港株は休場明けに下落

日経平均は週間で2.9%上昇し、6万8309円46銭で取引を終えた。10月1日はマイクロン・テクノロジーの決算を受けて半導体製造装置株が買われ、3.3%高の6万8956円72銭となった。レーザーテックは11.1%高、アドバンテストは9.8%高であった（Business Recorder）。金曜は利益確定売りに押され、0.9%下落した。日銀短観（7～9月期）では大企業製造業の業況判断指数が22から24に上昇し、6四半期連続で改善したが、市場予想の25には届かなかった（FXStreet、Japan Times）。円は対ドルで0.6%上昇し、ドル建ての日経平均は約3.5%上昇となる。

中国国家统计局の9月製造業PMIは50.1と8月の49.8から上昇し、2カ月ぶりに好不況の分かれ目である50を上回った。非製造業PMIは49.0から50.2に上昇した（新華社）。**本土市場の今週の取引は3日間にとどまった。**9月25日は中秋節、10月1日～7日は国慶節で休場となり、10月8日に取引を再開する（上海証券取引所）。表中の上海総合指数の1.2%安は、9月30日終値と9月24日終値の比較である。

香港市場は10月1日に休場した。10月2日の取引再開後は、香港・本土間の南向き取引（ストックコネクト）が10月8日まで停止するなか、ハンセン指数は2.60%下落して2万3972.29となり、3月23日以来の大幅安となった。金融株とカジノ株が下げを主導した（BigGo Finance）。同指数は9月30日までの3営業日で小幅に上昇していたが、週間では2.2%の下落となった。

雇用統計はFRBの早期利上げの可能性を低下させたが、長期金利は国債の需給、エネルギー価格、財政状況に左右されており、短期金利と長期金利の動

02

世界の株式市場

週間騰落（現地通貨建て）

ブラジル・ボベスバ +4.7% 年初来 +19.2%	日本・日経平均 +2.9% 年初来 +35.7%	台湾・加権指数 +0.9% 年初来 +67.4%	豪州・ASX200 +0.2% 年初来 -0.4%	米国・S&P500 -0.3% 年初来 +12.8%	新興国株（MSCI EM、ドル建て） -0.5% 年初来 +24.3%
世界株（MSCI ACWI、ドル建て） -0.6% 年初来 +13.9%	ドイツ・DAX -0.7% 年初来 +3.0%	メキシコ・IPC -0.7% 年初来 +0.3%	カナダ・TSX -0.8% 年初来 +12.0%	ユーロ圏・ストックス50 -1.0% 年初来 +7.6%	韓国・KOSPI -1.1% 年初来 +66.2%
中国・上海総合 -1.2% 年初来 -3.2%	スイス・SMI -2.0% 年初来 +3.0%	英国・FTSE100 -2.2% 年初来 +5.3%	香港・ハンセン -2.2% 年初来 -6.5%	フランス・CAC40 -2.2% 年初来 -3.1%	インド・Nifty50 -3.1% 年初来 -14.2%

各国指数は現地通貨建て。MSCI ACWIと新興国（EEM）はドル建てETF。

現地通貨建てでは、ブラジル・ボベスバ（+4.7%）、日経平均（+2.9%）、台湾加権指数（+0.9%）が上昇率上位となり、インドNifty50（-3.1%）、仏CAC40（-2.2%）、ハンセン指数（-2.2%）、英FTSE100（-2.2%）が下落率上位となった。MSCI ACWIは0.6%安、新興国ETFは0.5%安、S&P500は0.3%安であった。ブラジル株は10月4日の大統領選第1回投票を前に持ち高調整の買いが入り、金曜に2.63%上昇した（InfoMoney）。インドNifty50は外国人投資家の売り越しが続き、8週続落となった（5paisa）。

ドル建てに換算すると順位が変わる。メキシコIPCは0.7%安、ペソは2.2%安で、ドル建てでは約2.9%安となる。ボベスバは4.7%高、リアルは0.6%安で、ドル建てでは約4.1%高である。韓国KOSPIは1.1%安であるが、ウォンが1.9%上昇したため、ドル建てでは約0.7%高となる。ドル建てではCAC40が約3.2%安、日経平均が約3.5%高である。いずれも株価指数と為替の週間騰落率を掛け合わせた概算である。

休場と基準日：上海総合指数の今週の取引は3日間のみで、週間騰落率は9月30日終値と9月24日終値の比較である。インドは10月2日が休場のため、Nifty50は10月1日までの値である。KOSPIと台湾加権指数の前週基準日は、中秋節の休場によりそれぞれ9月23日と9月24日である。

03

主要通貨の対ドル相場

対ドルの週間騰落

ウォン +1.9% 年初来 +7.1%	円 +0.6% 年初来 -1.0%	ポンド +0.2% 年初来 -1.7%	人民元 +0.1% 年初来 +4.3%	スイスフラン -0.1% 年初来 -4.4%	ルピー -0.1% 年初来 -6.7%
リアル -0.6% 年初来 +4.9%	ユーロ -1.0% 年初来 -4.2%	豪ドル -1.1% 年初来 +3.4%	メキシコペソ -2.2% 年初来 -0.9%		

プラスは当該通貨の対ドルでの上昇を示す。

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
ウォン	USD/1,342.51	+1.9%	+7.1%
円	USD/157.93	+0.6%	-1.0%

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
ポンド	1.3240	+0.2%	-1.7%
人民元	USD/6.7045	+0.1%	+4.3%
スイスフラン	USD/0.8285	-0.1%	-4.4%
ルビー	USD/96.22	-0.1%	-6.7%
レアル	USD/5.2226	-0.6%	+4.9%
ユーロ	1.1257	-1.0%	-4.2%
豪ドル	0.6929	-1.1%	+3.4%
ドル指数は週末 101.93 (+0.96) 。USD/ 表記は1ドルあたりの通貨量。			
メキシコペソ	USD/18.14	-2.2%	-0.9%

ドル指数は0.96上昇して101.93となり、3週続伸した。ウォンは対ドルで1.9%上昇して上昇率首位となり、月末の輸出企業によるドル売りが一因となった（Korea Times）。円は0.6%上昇して1ドル=157.93円、ポンドは0.2%上昇した。人民元は0.1%上昇した。本土の外国為替市場は10月1日から連休で休場している。

メキシコペソは2.2%下落して下落率が最も大きく、10月1日には2025年12月以来の安値をつけた。9月の下落率は6.32%と2年余りで最大の月間下落である。メキシコ中銀が9月24日に金利を据え置いた後、メキシコと米国の金利差は250bpに縮小した（Rio Times）。ユーロは1.0%安、豪ドルは豪準備銀行の4.60%への利上げにもかかわらず1.1%安、ブラジル・レアルは大統領選を前に0.6%安となった。

04

金利と金融政策

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
FRB	3.75～4.00%	9/16 に25bp 利上げ、12対0の全会一致	10/27～28
欧州中央銀行	預金金利 2.50%	9/10 に25bp 利上げ	10/28～29
日本銀行	1.25%	9/18 に25bp 利上げ、7対2	10/29～30
イングランド銀行	3.75%	9/17 据え置き、6対3（3人が利上げを主張）	11/5
豪準備銀行	4.60%	9/29 に25bp 利上げ、年内4回目	11/2～3（11/3 公表）
中国人民銀行	1年物 LPR 3.00%	9/21 LPR 据え置き（5年物 3.50%）	10/20 LPR 公表
インド準備銀行	レボ金利 5.25%	8/5 据え置き、中立スタンス	10/5～7（10/7 公表）
スイス国立銀行	0%	9/24 据え置き	12/10
メキシコ中央銀行	6.50%	9/24 据え置き	11/5

各中央銀行の公表資料に基づき、発行時に確認。

米国債	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.78%	-3bp	+131bp
米10年債	5.24%	+7bp	+106bp
米30年債	5.61%	+12bp	+77bp
10年実質金利（TIPS）	2.88%	+5bp	+95bp
10年ブレークイーブン・インフレ率	2.36%	+2bp	+11bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
オーストラリア	2026-08	5.01%	+10bp
英国	2026-08	4.99%	+6bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
フランス	2026-08	4.00%	+15bp
イタリア	2026-08	3.99%	+11bp
カナダ	2026-08	3.67%	+13bp
ドイツ	2026-08	3.18%	+11bp
OECD平均月次データ（FRED 経由）で、通常1〜2カ月遅れ。水準の確認用で、今週の動きは下の債券ETFと本文を参照。	2026-08	2.94%	+15bp

債券ETF	週間	1カ月	年初来
米国外投資適格債（BNDX、ヘッジあり）	+0.1%	-0.6%	-0.9%
米外国債（BWX、ヘッジなし）	-0.7%	-2.4%	-4.5%
米ハイイールド債（HYG）	-0.8%	-2.3%	-0.3%
新興国ドル建て債（EMB）	-1.7%	-3.8%	-2.6%
米長期国債（TLT）	-1.9%	-5.1%	-8.0%

債券価格と利回りは逆に動くため、ETFの下落は利回りの上昇を意味する。

米国では木曜までに2年債利回りが3bp低下、30年債利回りが12bp上昇し、イールドカーブはスティープ化した。月次データでは、8月の英国とオーストラリアの10年債利回りはいずれも5%前後、フランスは4.00%、ドイツは3.18%、日本は2.94%であった。英30年債利回りの6%到達や仏10年債利回りの2008年以来の高水準といった今週の動きは、月次の表には未反映である。

債券ETFでは、米長期国債（TLT）が1.9%安、新興国ドル建て債（EMB）が1.7%安、為替ヘッジなしの米外国債（BWX）が0.7%安となった一方、為替ヘッジ付きの米国外投資適格債（BNDX）は0.1%高であった。両者の差は主にドル高によるものである。

各国の金融政策は引き続き分かれている。豪準備銀行は9月29日に政策金利を25bp引き上げて4.60%とし、年内4回目の利上げとなった（RBA）。イングランド銀行は9月に3.75%で据え置いたが、3人の委員が利上げを主張した。ECBは10月29日の会合で3.8%のインフレ率に直面する。FRBの10月利上げの織り込みは大きく低下した。インド準備銀行は10月7日に政策決定を公表し、多くのエコノミストは25bpの利上げを予想している。

05

商品・暗号資産

週間騰落（ドル建て）

ビットコイン +0.0% 年初来 -3.4%	イーサリアム -0.7% 年初来 -10.1%	WTI 原油 -1.4% 年初来 +58.7%	ブレント原油 -2.0% 年初来 +68.0%	小麦 -2.9% 年初来 +34.7%	銅 -3.0% 年初来 +15.3%
金 -3.7% 年初来 -4.1%	米天然ガス -5.0% 年初来 -17.7%	トウモロコシ -5.8% 年初来 +13.1%	銀 -6.6% 年初来 -14.5%		

資産	直近	週間	1カ月	年初来
ビットコイン	84,497.21	+0.0%	+9.3%	-3.4%
イーサリアム	2,668.15	-0.7%	+11.6%	-10.1%
WTI 原油	91.11	-1.4%	+0.1%	+58.7%
ブレント原油	102.25	-2.0%	+6.9%	+68.0%
小麦	683.00	-2.9%	-9.5%	+34.7%

資産	直近	週間	1カ月	年初来
銅	6.49	-3.0%	-0.1%	+15.3%
金	4,162.30	-3.7%	-5.7%	-4.1%
米天然ガス	3.04	-5.0%	+2.7%	-17.7%
トウモロコシ	497.75	-5.8%	-4.0%	+13.1%
原油・天然ガス・金属・穀物は期近先物。 銀	59.98	-6.6%	-7.3%	-14.5%

貴金属が下落を主導した。金は3.7%安の1オンス＝4162.30ドルと2週続落し、銀は6.6%安となった。ドル高と実質金利の上昇が重荷となった（Business Recorder）。

ブレント原油の期近先物は2.0%安の102.25ドル、WTIは1.4%安の91.11ドルとなった。G7は10月2日、軽油などの備蓄1億バレルを4カ月かけて放出し、最初の20日間に軽油を重点的に放出することで合意した（The National）。ブレントの11月限は9月30日に満期を迎えており、同一限月ベースでは週間でほぼ横ばいであった（EnergyNow）。期近つなぎ足の週間騰落率には限月交代の影響が含まれる。銅は3.0%安、米天然ガスは5.0%安、トウモロコシは5.8%安。ビットコインはほぼ横ばい（+0.05%）、イーサは0.7%安であった。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
10/4	ブラジル大統領選の第1回投票	Datafolhaの世論調査ではルラ氏40%、フラビオ・ボルソナロ氏36%。過半数に届かなければ10月25日に
10/5	米9月ISM非製造業景況指数	8月は55.4、市場予想は55.3。雇用統計の下振れを受け、10月利上げの織り込み（約22%）を左右する
10/7	インド準備銀行の政策決定	レポ金利は現在5.25%で、多くのエコノミストは5.50%への25bp利上げを予想している。8月CPIは4.82%
10/7	FOMC議事要旨（9月会合分）	追加利上げの条件に関する議論と、長期金利の上昇やタームプレミアムに対する評価が焦点
10/8	中国本土市場が国慶節明けに取引再開	上海総合指数の今週の取引は3日間のみ。南向き取引も同日再開し、本土資金不在のハンセン指数は10月

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 - 1（2026-09-28～2026-10-02）。休場の市場は直近の取引日。

株価指数・為替・商品・暗号資産・債券ETFはYahoo!ファイナンス（遅延あり）、米国債利回りはFRED、その他の10年国債利回りはOECD月次データ（FRED経由）。

為替は各通貨の対ドルでの騰落に統一し、プラスは通貨高を示す。

データの基準：株価指数、為替、商品、暗号資産、債券ETFは10月2日（金曜）終値を含む。例外は上海総合指数（国慶節休場のため9月30日まで）とインドNifty50（10月2日休場のため10月1日まで）である。米国債利回り（FRED）は10月1日まで、10年期待インフレ率は10月2日まで。金曜の米国債利回りの動きは報道に基づく。その他の10年国債利回りはOECDの8月の月次データである。

今週の引用資料

- 米9月雇用統計：BLS、CNBC, 10/2
- 米国株の金曜終値と10月利上げの織り込み：Yahoo Finance, 10/2
- ジェファーソン副議長の発言：Spokesman-Review, 10/1
- ユーロ圏9月の消費者物価速報：Eurostat, 10/2、CNBC, 10/2

英30年債利回りが6%超え: Seoul Economic Daily, 10/2
英仏国債と仏予算案: Yahoo Finance, 10/1
欧州株の金曜終値: Yahoo Finance, 10/2
日経平均と半導体株: Business Recorder, 10/1
日銀短観: FXStreet, 9/30
中国9月PMI: 新華社, 9/30
上海市場の中秋節・国慶節休場: 上海証券取引所
10月2日のハンセン指数: BigGo Finance, 10/2
インド株と海外資金流出: 5paisa, 10/1
ブラジル株と大統領選: InfoMoney, 10/2、CNBC, 10/2
ウォン: Korea Times, 9/29
メキシコペソ: Rio Times
金: Business Recorder, 10/2
G7の備蓄放出と原油: The National, 10/2、EnergyNow
中央銀行: FRB 9/16 声明、FOMC 日程、ECB 9/10 決定、ECB 日程、日銀 9/18 公表文、日銀 会合日程、イングランド銀行 9月決定、豪準備銀行、豪準備銀行 日程、中国人民銀行 LPR (FXStreet)、インド準備銀行の政策予想 (Business Standard)、スイス国立銀行 9/24、メキシコ中銀
来週の日程: ISM 非製造業日程、FOMC 議事要旨日程

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-02・雅虎财经（股指、汇率、商品、加密资产、債券 ETF）；FRED（美債収益率、OECD 各国 10 年期国債収益率）

AlphaScope・alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w40・2026-10-03 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。